

NEWS CIT

2022 6.15

ニュースシーアイティ

千葉工業大学・入試広報部
〒275-0016 千葉県習志野市津田沼
2丁目17番1号
TEL 047(478)0222 FAX 047(478)3344

<https://www.it-chiba.ac.jp/>

毎月1回(8月を除く)15日発行

ニュースガイド

- 2面 橋本研・池田さん優秀賞/藤本研2人ポスター賞/安藤教授に標準化貢献賞/磯野助教授が大多喜町で授業/ベスト・ティーチャー賞に熱海教授
- 3面 高校教員に入試説明会/天体衝突探る衝撃指標確立/第27回文化の祭典
- 4面 自治会クリーンデー成果/虫の音にリラックス効果/寮運動会再開

創立80年を語る1本の棒

玉川学園理事長から贈り物

大学創立80周年の5月15日、教職員らの「感謝の集い」が開かれた。式典は行わず出席者は教職員・家族・同窓会関係者に限定。本学創立に尽力した小原國芳翁の孫で3代目の小原芳明・玉川学園理事長が列席され、小原理事長から、千葉工業大学の歴史を伝える大切な品となる「幣串」(注1)が寄贈された。瀬戸熊修理理事長は「貴重なもの」と、創設時を伝える歴史的資料に感謝した。

玉川大と本学の関係は1942(昭和17)年、千葉工業大の前身である「興亜工業大学」が玉川学園のキャンパス内に創立されたことに始まる。この計画に携わったのが玉川学園創立者で「全人教育」の提唱者でもある小原國芳氏だった。

その後、興亜工業大は玉川の地を離れ、太平洋戦争終戦前後の混乱に翻る。両大学の創立に小原國芳氏が携わった。現在に至っている。

「興亜工業大学」が玉川学園のキャンパス内に創立されたことに始まる。この計画に携わったのが玉川学園創立者で「全人教育」の提唱者でもある小原國芳氏だった。

2019(令和元)年9月26日には、建学の教育理念で結ばれた千葉工大と玉川大の両大学が、教育・研究・社会貢献に係る諸活動について連携・協力を推進するため、包括的連携協定を締結。

以来、ともに発展し、学術と産業の進展・人材の育成に寄与するために協力してきた。



瀬戸熊理事長(左)と松井学長

5月15日、教職員感謝の集いが東京都内のホテルで開かれた。当日は多忙の中、菅義偉前首相、萩生田光一経済産業大臣、ジャーナリストの櫻井よしこさんが駆け付け、お祝いの言葉

80周年 感謝の集い開く

小原玉川学園理事長を招いて

を述べた。菅前首相は、本学がワクチン職域接種をいち早く行ったことに感謝の気持ちを伝えるに来た、と話した。

瀬戸熊修理理事長はあいさつで「思えば昭和17年の5月15日、玉川大学の壮大な夢と理想のもとに建学されました。本日は、本学の創立に尽力した小原國芳翁の孫で、3代目である小原芳明・玉川学園理事長にもお越しただいてありがとうございます。会場入り口に飾られていた夢という文字。かつて小原國芳翁が、多くの夢を持ってほしいと願って夕の部分を二画多く書かれた思いの通り、私も学生

にはできるだけ大きな夢を持って突き進んでいってもらいたい、それが教育者のひとりとしての願い。そのために教育環境整備を進めていく所存です」と述べた。

続いて小原玉川学園理事長より「おめでとうございませう」の言葉とともに記念の幣串が寄贈された。また、松井孝典学長の音頭で乾杯し、参加者たちはしばしば歓談の時を過ぎた。

会場ではこの日のために制作した創立80周年を振り返る動画が上映され、教職員らは、改めて千葉工大80年の歴史に思いを馳せていた。



建物解体時に発見された幣串



瀬戸熊理事長(左)にサプライズプレゼントの幣串を手渡す小原理事長



興亜工業大予科本館(撮影は戦後とみられる)



2022年、中央柱の上部で発見された幣串(▷印=建物解体時)

「幣串」は、近年まで「旧本部棟」として現存していた興亜工大予科本館を解体した際に見つかった幣串だ。校舎の棟上げの際に、大工の棟梁が

「(注1)幣串 建物の無事完成を祈願し、上棟記念に棟に縛り付けたあと、建物が解体されるまで、未だまで保存するとされる。

(注2) 振替 「ふりへい」とも読む。建物の上棟式に、棟梁などが御幣(紙や布を切り細長い木に挟んで垂らした、神々への捧げ物)を持ち、「千歳棟、万歳棟、永々棟」と唱えながら左右に振って、周囲を清める儀式。

記念の新聞広告に反響

本学は創立記念日に全国紙の朝刊に記念広告を掲載した。写真。中央に「すべての科学者に告ぐ。」という一語を掲げ、「……命を救うための研究が兵器に活用され……」と科学技術の負の側面を語る。そして「科学者たちよ。今こそ声を上げるべきだ。すべての技術は人類を幸福にするため生まれ、世界に平和をもたらすためにのみ生かされるべきだ」と結ぶ。

大学の広告らしからぬ、斬新で挑戦的なメッセージだ、とSNSなどで話題を呼び、大学にも感想の電話や、賛同の意を伝える手紙がきた。

高流動コンクリート 圧送時の品質分析で優秀賞

橋本研・池田さん

土木学会の第49回関東支部技術発表会(3月8~10日、Zoom)に

よるオンライン開催で、池田信義さん(都市環境工学専攻修士2年、



橋本研一朗研究室II写真)が「締固めを必要とする高流動コンクリートの圧送前後における品質評価に関する分析」を発表し、優秀発表者賞を受賞した。

硬めの通常コンクリートをポンプで型枠に圧送する時の品質変化については現在、施工条件に応じたスランプ(流動性)低下の目安が土木学会で規定されている。しかし、特に流動性の高いコ

ンクリートの流動性を表す指標「スランプフロロ」については、品質変

化を考慮する報告はなされてい

た。池田さんは「多数の参加者の中で、自分の発表が認められたのは素直にうれしいです。今後も精進を重ね、全国大会やその他の学会発表でも認められるようにしたいと思います」と語った

大多喜町でまちづくり授業

磯野助教が高校生に

都市環境工学科の磯野綾助教は、房総半島南部の大多喜町が抱える課題に理解を深め、地域貢献への意識を高めるため、

大多喜高校(中間芳秀校長)で「地域をよくするってどうすればいいんだろう?」と題して模擬授業を行ったII写真。

同高には「総合的な探求の時間」の授業があり、その5、6時限を利用。1年生を2組に分け、計127人に授業を行っ



た。

磯野助教の専門は「景観工学、まちづくり」で、「地域に誇りと愛着を持って暮らすにはどうすればいいのか」「地域固有の魅力とは何か」の問いに、景観やまちづくりを通して伝えようとしている。自身が大多喜町出身でもあり、地域を良くしていくために必要な

ハード(施設や設備)やソフト(人材や技術、情報、制度など)の具体例を挙げて、分かりやすく

説明後、生徒たちから「森林を活用した事例などはありますか?」と先

生を取り組みで、大きな結果が出たものはありませんか?」「地域内・外の両方の人たちに情報を伝えるにはどうしたらいいですか?」など積極的な質問が出て、やりとりが展開された。

藤本研2人ポスター賞

ファイバレーザ開発で

高度なレーザと光子源に関する第11回国際学会(ALPS2022II

レーザ学会主催、4月18~21日、横浜市のパシ

ファイコ横浜で開催)のポスターセッションで、高橋健太さん(電気電子工

学専攻修士2年、藤本靖研究室II写真左)と黄金

井彩花さん(同1年II同右)が「DY3+ドープ耐

候性フッ化物ファイバを用いた黄色(波長575nm)レーザの開発」を英文発表し、ポスター賞を受賞した。

2人は藤本教授の研究

室で、光材料の物性やレ



レーザー制御を研究している。開催が続いたが今回、コロナ禍でオンライン対面発表が復活した。

細かいファイバ内にレーザ光を閉じ込め使うファイバレーザは、

微細加工や溶接、切断、計測などでの利用が急速に進んでいる。黄色レーザは医療分野や、金属加工などに活用されてきたが、既存レーザは装

置が大型でエネルギー効率が悪いといった欠点が指摘されてきた。

2人は希土類イオンのDy3+がドープ(添加)されたファイバを用いて、小型で高出力・高効率の黄色ファイバレーザを開発した成果を報告

した。英文のポスター制作は初めてという、図や写真の配置を特に工夫した。高橋さんは「緊張しましたが、たかさんの方々が来場され、学会幹事からは『2人で一生懸命発表されている姿に心を打たれた』と聞いていた

た。後日、表彰状と立派な盾が届き、うれしかったという。黄金井さんも「最初は緊張しましたが、今後は楽しみといった声をいただけました。今後も頑張っていきたい」と語った。

安藤教授に標準化貢献賞

人間工学会



日本人間工学会(吉武良治理事長)は、知能メディア工学科の安藤昌也教授に対し「人間工学の普及と発展に多大な貢献があった」として、6月18日付で標準化貢献賞を贈った。

日本人間工学会は、国際標準化機構で制定される国際規格(ISO規

格)のうち人間工学に関する規格について日本を代表して審議を行うほか、日本にとって有益な

ものを日本産業規格(JIS規格)として発行するなどの活動を進めている。安藤教授は、人間工学に基づいた製品コンセプトの開発やユーザエクスペリエンスデザインの研究を行う一方、人間工学に関するISO規格の国内対策委員会の委員のほ

か、JIS規格の委員として、ソフトウェアにおける高齢者・障害者への配慮設計指針やユーザビリティ(使いやすさ)の定義に関する規格の策定に携わった。また、人間中心設計に関するJIS規格の委員長を務めるなど、人間工学関連規格の策定・普及に貢献した。

ベスト・ティーチャー賞に熱海教授 3年度後期GL賞に9教員

令和3年度後期のグッド・レクチャー(GL)賞に教員9人が選ばれ、6月9日、受賞式が行われて、松井孝典学長から表彰されたII写真。前後期のグッド・レクチャー賞からさらにベスト・ティーチャー賞として熱海武憲教授II左から4人目IIが選ばれ、表彰状と盾が贈られた。



令和3年度後期グッド・レクチャー賞

●ベスト・ティーチャー賞

熱海武憲教授(機械工学科)「計測工学」

●グッド・レクチャー賞

- 小山和也教授(先端材料工学科)「材料電気化学」▽山崎克巳教授(電気電子工学科)「電気回路解析学」▽内海秀幸教授(都市環境工学科)「構造力学I、応用力学」▽大川茂樹教授(未来ロボティクス学科)「信号処理論、数値解析学」▽横山利章教授(教育センター)「線形代数応用」▽金田晃一教授(教育センター)「スポーツ科学」▽軍司圭二准教授(教育センター)「微分積分」▽木島愛教授(教育センター)「言語と文化」

高校教員に説明会

ライブで全国にも配信



5年度入試

高校教員を対象にした
本学の令和5年度入試説明会が6月7日、東京スカイツリータウン、6月10日津田沼キャンパスで開かれ、2日間で計157校161人の進路担当の先生たちが参加した。写真。また、新型コロナウイルス

2回の説明会では、

下部入試広報部長が前年度を振り返り、新型コロナウイルス対策でいち早く対面授業を実施したことや、ワークシフトの職種の実施を説明。入試制度の変更と入試結果、就職状況や返学者・留学者抑制への取り組みを話し、学部横断

「不確実な時代を切り拓く、ファイナンス変革」と題した講演会(文藝春秋主催、Sansan(株)協賛)が5月26日、オンラインで開催され、

角田教授は東京海上日動システムズ執行役員、名古屋経済大教授などを歴任。デジタル人材育成

STEMが大きく変化している現代、ビジネスにおける喫緊の課題として「本社機構が自らデジタル人材の育成を行う必要がある」と強調した。

角田教授は東京海上日動システムズ執行役員、名古屋経済大教授などを歴任。デジタル人材育成

率よい実験手法を開発。PERCの2段階軽ガス衝撃銃で衝撃を与え、偏光顕微鏡、X線マイクロCT、微小部X線回折法などで詳細に観察した。

その結果、衝撃圧力が3万気圧を超えた場合に、方解石粒子の大部分が波状消光と呼ばれる不均質な光学的特徴を示すことを確認。数値計算でも解析した。

計算では、直径100μmの母天体に直径20μmの天体を秒速5μmで衝突させ、3万気圧を超える衝撃圧力が加わる領域の広さを調べた。波状消光を

安心して入試を迎える仕組みや進学支援について話し、高校教員らは納得の表情で聞き入った。今回、津田沼キャンパスでは見学希望者を募り、中村さんが研究分野に関する「音環境実験室」を案内。昨年からスタートした「高度技術者育成プログラム」の拠点となる演習室を公開し、

型の新規プロジェクトや高校生向け参加型プログラムにも触れた。

続いて、昨年度好評だった学生プレゼンに、今年建築工

学専攻修士1年の中村史奈さんが登場。「在学生からみた千葉工大」を話した。

本学に入学した理由や学んでいること、大学への要望など本音を語り、教員からは「実際に学んでいる様子や、先生との関係性が見られてよかった」との声が聞かれた。

終盤では、大川茂樹・入試委員長(副学長・未来ロボティクス学科教授)が昨年度入試結果の詳細を話したほか、令和5年度の総合型選抜、学校推薦型選抜、大学独自入学試験、大学入学共通テスト利用入学試験の要点などを説明。受験生が

「不確実な時代を切り拓く、ファイナンス変革」と題した講演会(文藝春秋主催、Sansan(株)協賛)が5月26日、

オンラインで開催され、

角田教授は東京海上日動システムズ執行役員、名古屋経済大教授などを歴任。デジタル人材育成

STEMが大きく変化している現代、ビジネスにおける喫緊の課題として「本社機構が自らデジタル人材の育成を行う必要がある」と強調した。

角田教授は東京海上日動システムズ執行役員、名古屋経済大教授などを歴任。デジタル人材育成

率よい実験手法を開発。PERCの2段階軽ガス衝撃銃で衝撃を与え、偏光顕微鏡、X線マイクロCT、微小部X線回折法などで詳細に観察した。

その結果、衝撃圧力が3万気圧を超えた場合に、方解石粒子の大部分が波状消光と呼ばれる不均質な光学的特徴を示すことを確認。数値計算でも解析した。

計算では、直径100μmの母天体に直径20μmの天体を秒速5μmで衝突させ、3万気圧を超える衝撃圧力が加わる領域の広さを調べた。波状消光を

安心して入試を迎える仕組みや進学支援について話し、高校教員らは納得の表情で聞き入った。今回、津田沼キャンパスでは見学希望者を募り、中村さんが研究分野に関する「音環境実験室」を案内。昨年からスタートした「高度技術者育成プログラム」の拠点となる演習室を公開し、

型の新規プロジェクトや高校生向け参加型プログラムにも触れた。

続いて、昨年度好評だった学生プレゼンに、今年建築工

学専攻修士1年の中村史奈さんが登場。「在学生からみた千葉工大」を話した。

本学に入学した理由や学んでいること、大学への要望など本音を語り、教員からは「実際に学んでいる様子や、先生との関係性が見られてよかった」との声が聞かれた。

終盤では、大川茂樹・入試委員長(副学長・未来ロボティクス学科教授)が昨年度入試結果の詳細を話したほか、令和5年度の総合型選抜、学校推薦型選抜、大学独自入学試験、大学入学共通テスト利用入学試験の要点などを説明。受験生が

「不確実な時代を切り拓く、ファイナンス変革」と題した講演会(文藝春秋主催、Sansan(株)協賛)が5月26日、

オンラインで開催され、

角田教授は東京海上日動システムズ執行役員、名古屋経済大教授などを歴任。デジタル人材育成

STEMが大きく変化している現代、ビジネスにおける喫緊の課題として「本社機構が自らデジタル人材の育成を行う必要がある」と強調した。

角田教授は東京海上日動システムズ執行役員、名古屋経済大教授などを歴任。デジタル人材育成

率よい実験手法を開発。PERCの2段階軽ガス衝撃銃で衝撃を与え、偏光顕微鏡、X線マイクロCT、微小部X線回折法などで詳細に観察した。

その結果、衝撃圧力が3万気圧を超えた場合に、方解石粒子の大部分が波状消光と呼ばれる不均質な光学的特徴を示すことを確認。数値計算でも解析した。

計算では、直径100μmの母天体に直径20μmの天体を秒速5μmで衝突させ、3万気圧を超える衝撃圧力が加わる領域の広さを調べた。波状消光を

安心して入試を迎える仕組みや進学支援について話し、高校教員らは納得の表情で聞き入った。今回、津田沼キャンパスでは見学希望者を募り、中村さんが研究分野に関する「音環境実験室」を案内。昨年からスタートした「高度技術者育成プログラム」の拠点となる演習室を公開し、

型の新規プロジェクトや高校生向け参加型プログラムにも触れた。

続いて、昨年度好評だった学生プレゼンに、今年建築工

学専攻修士1年の中村史奈さんが登場。「在学生からみた千葉工大」を話した。

本学に入学した理由や学んでいること、大学への要望など本音を語り、教員からは「実際に学んでいる様子や、先生との関係性が見られてよかった」との声が聞かれた。

終盤では、大川茂樹・入試委員長(副学長・未来ロボティクス学科教授)が昨年度入試結果の詳細を話したほか、令和5年度の総合型選抜、学校推薦型選抜、大学独自入学試験、大学入学共通テスト利用入学試験の要点などを説明。受験生が

「不確実な時代を切り拓く、ファイナンス変革」と題した講演会(文藝春秋主催、Sansan(株)協賛)が5月26日、

オンラインで開催され、

角田教授は東京海上日動システムズ執行役員、名古屋経済大教授などを歴任。デジタル人材育成

STEMが大きく変化している現代、ビジネスにおける喫緊の課題として「本社機構が自らデジタル人材の育成を行う必要がある」と強調した。

角田教授は東京海上日動システムズ執行役員、名古屋経済大教授などを歴任。デジタル人材育成

率よい実験手法を開発。PERCの2段階軽ガス衝撃銃で衝撃を与え、偏光顕微鏡、X線マイクロCT、微小部X線回折法などで詳細に観察した。

その結果、衝撃圧力が3万気圧を超えた場合に、方解石粒子の大部分が波状消光と呼ばれる不均質な光学的特徴を示すことを確認。数値計算でも解析した。

計算では、直径100μmの母天体に直径20μmの天体を秒速5μmで衝突させ、3万気圧を超える衝撃圧力が加わる領域の広さを調べた。波状消光を

安心して入試を迎える仕組みや進学支援について話し、高校教員らは納得の表情で聞き入った。今回、津田沼キャンパスでは見学希望者を募り、中村さんが研究分野に関する「音環境実験室」を案内。昨年からスタートした「高度技術者育成プログラム」の拠点となる演習室を公開し、

型の新規プロジェクトや高校生向け参加型プログラムにも触れた。

続いて、昨年度好評だった学生プレゼンに、今年建築工

学専攻修士1年の中村史奈さんが登場。「在学生からみた千葉工大」を話した。

本学に入学した理由や学んでいること、大学への要望など本音を語り、教員からは「実際に学んでいる様子や、先生との関係性が見られてよかった」との声が聞かれた。

終盤では、大川茂樹・入試委員長(副学長・未来ロボティクス学科教授)が昨年度入試結果の詳細を話したほか、令和5年度の総合型選抜、学校推薦型選抜、大学独自入学試験、大学入学共通テスト利用入学試験の要点などを説明。受験生が

「不確実な時代を切り拓く、ファイナンス変革」と題した講演会(文藝春秋主催、Sansan(株)協賛)が5月26日、

オンラインで開催され、

角田教授は東京海上日動システムズ執行役員、名古屋経済大教授などを歴任。デジタル人材育成

STEMが大きく変化している現代、ビジネスにおける喫緊の課題として「本社機構が自らデジタル人材の育成を行う必要がある」と強調した。

角田教授は東京海上日動システムズ執行役員、名古屋経済大教授などを歴任。デジタル人材育成

率よい実験手法を開発。PERCの2段階軽ガス衝撃銃で衝撃を与え、偏光顕微鏡、X線マイクロCT、微小部X線回折法などで詳細に観察した。

その結果、衝撃圧力が3万気圧を超えた場合に、方解石粒子の大部分が波状消光と呼ばれる不均質な光学的特徴を示すことを確認。数値計算でも解析した。

計算では、直径100μmの母天体に直径20μmの天体を秒速5μmで衝突させ、3万気圧を超える衝撃圧力が加わる領域の広さを調べた。波状消光を

安心して入試を迎える仕組みや進学支援について話し、高校教員らは納得の表情で聞き入った。今回、津田沼キャンパスでは見学希望者を募り、中村さんが研究分野に関する「音環境実験室」を案内。昨年からスタートした「高度技術者育成プログラム」の拠点となる演習室を公開し、

型の新規プロジェクトや高校生向け参加型プログラムにも触れた。

続いて、昨年度好評だった学生プレゼンに、今年建築工

学専攻修士1年の中村史奈さんが登場。「在学生からみた千葉工大」を話した。

本学に入学した理由や学んでいること、大学への要望など本音を語り、教員からは「実際に学んでいる様子や、先生との関係性が見られてよかった」との声が聞かれた。

終盤では、大川茂樹・入試委員長(副学長・未来ロボティクス学科教授)が昨年度入試結果の詳細を話したほか、令和5年度の総合型選抜、学校推薦型選抜、大学独自入学試験、大学入学共通テスト利用入学試験の要点などを説明。受験生が

「不確実な時代を切り拓く、ファイナンス変革」と題した講演会(文藝春秋主催、Sansan(株)協賛)が5月26日、

オンラインで開催され、

角田教授は東京海上日動システムズ執行役員、名古屋経済大教授などを歴任。デジタル人材育成

STEMが大きく変化している現代、ビジネスにおける喫緊の課題として「本社機構が自らデジタル人材の育成を行う必要がある」と強調した。

角田教授は東京海上日動システムズ執行役員、名古屋経済大教授などを歴任。デジタル人材育成

率よい実験手法を開発。PERCの2段階軽ガス衝撃銃で衝撃を与え、偏光顕微鏡、X線マイクロCT、微小部X線回折法などで詳細に観察した。

その結果、衝撃圧力が3万気圧を超えた場合に、方解石粒子の大部分が波状消光と呼ばれる不均質な光学的特徴を示すことを確認。数値計算でも解析した。

計算では、直径100μmの母天体に直径20μmの天体を秒速5μmで衝突させ、3万気圧を超える衝撃圧力が加わる領域の広さを調べた。波状消光を

安心して入試を迎える仕組みや進学支援について話し、高校教員らは納得の表情で聞き入った。今回、津田沼キャンパスでは見学希望者を募り、中村さんが研究分野に関する「音環境実験室」を案内。昨年からスタートした「高度技術者育成プログラム」の拠点となる演習室を公開し、

型の新規プロジェクトや高校生向け参加型プログラムにも触れた。

続いて、昨年度好評だった学生プレゼンに、今年建築工

学専攻修士1年の中村史奈さんが登場。「在学生からみた千葉工大」を話した。

本学に入学した理由や学んでいること、大学への要望など本音を語り、教員からは「実際に学んでいる様子や、先生との関係性が見られてよかった」との声が聞かれた。

終盤では、大川茂樹・入試委員長(副学長・未来ロボティクス学科教授)が昨年度入試結果の詳細を話したほか、令和5年度の総合型選抜、学校推薦型選抜、大学独自入学試験、大学入学共通テスト利用入学試験の要点などを説明。受験生が

「不確実な時代を切り拓く、ファイナンス変革」と題した講演会(文藝春秋主催、Sansan(株)協賛)が5月26日、

オンラインで開催され、

角田教授は東京海上日動システムズ執行役員、名古屋経済大教授などを歴任。デジタル人材育成

STEMが大きく変化している現代、ビジネスにおける喫緊の課題として「本社機構が自らデジタル人材の育成を行う必要がある」と強調した。

角田教授は東京海上日動システムズ執行役員、名古屋経済大教授などを歴任。デジタル人材育成

率よい実験手法を開発。PERCの2段階軽ガス衝撃銃で衝撃を与え、偏光顕微鏡、X線マイクロCT、微小部X線回折法などで詳細に観察した。

その結果、衝撃圧力が3万気圧を超えた場合に、方解石粒子の大部分が波状消光と呼ばれる不均質な光学的特徴を示すことを確認。数値計算でも解析した。

計算では、直径100μmの母天体に直径20μmの天体を秒速5μmで衝突させ、3万気圧を超える衝撃圧力が加わる領域の広さを調べた。波状消光を

安心して入試を迎える仕組みや進学支援について話し、高校教員らは納得の表情で聞き入った。今回、津田沼キャンパスでは見学希望者を募り、中村さんが研究分野に関する「音環境実験室」を案内。昨年からスタートした「高度技術者育成プログラム」の拠点となる演習室を公開し、

型の新規プロジェクトや高校生向け参加型プログラムにも触れた。

続いて、昨年度好評だった学生プレゼンに、今年建築工

学専攻修士1年の中村史奈さんが登場。「在学生からみた千葉工大」を話した。

本学に入学した理由や学んでいること、大学への要望など本音を語り、教員からは「実際に学んでいる様子や、先生との関係性が見られてよかった」との声が聞かれた。

終盤では、大川茂樹・入試委員長(副学長・未来ロボティクス学科教授)が昨年度入試結果の詳細を話したほか、令和5年度の総合型選抜、学校推薦型選抜、大学独自入学試験、大学入学共通テスト利用入学試験の要点などを説明。受験生が

「不確実な時代を切り拓く、ファイナンス変革」と題した講演会(文藝春秋主催、Sansan(株)協賛)が5月26日、

オンラインで開催され、

角田教授は東京海上日動システムズ執行役員、名古屋経済大教授などを歴任。デジタル人材育成

STEMが大きく変化している現代、ビジネスにおける喫緊の課題として「本社機構が自らデジタル人材の育成を行う必要がある」と強調した。

角田教授は東京海上日動システムズ執行役員、名古屋経済大教授などを歴任。デジタル人材育成

率よい実験手法を開発。PERCの2段階軽ガス衝撃銃で衝撃を与え、偏光顕微鏡、X線マイクロCT、微小部X線回折法などで詳細に観察した。

その結果、衝撃圧力が3万気圧を超えた場合に、方解石粒子の大部分が波状消光と呼ばれる不均質な光学的特徴を示すことを確認。数値計算でも解析した。

計算では、直径100μmの母天体に直径20μmの天体を秒速5μmで衝突させ、3万気圧を超える衝撃圧力が加わる領域の広さを調べた。波状消光を

安心して入試を迎える仕組みや進学支援について話し、高校教員らは納得の表情で聞き入った。今回、津田沼キャンパスでは見学希望者を募り、中村さんが研究分野に関する「音環境実験室」を案内。昨年からスタートした「高度技術者育成プログラム」の拠点となる演習室を公開し、

型の新規プロジェクトや高校生向け参加型プログラムにも触れた。

続いて、昨年度好評だった学生プレゼンに、今年建築工

学専攻修士1年の中村史奈さんが登場。「在学生からみた千葉工大」を話した。

本学に入学した理由や学んでいること、大学への要望など本音を語り、教員からは「実際に学んでいる様子や、先生との関係性が見られてよかった」との声が聞かれた。

終盤では、大川茂樹・入試委員長(副学長・未来ロボティクス学科教授)が昨年度入試結果の詳細を話したほか、令和5年度の総合型選抜、学校推薦型選抜、大学独自入学試験、大学入学共通テスト利用入学試験の要点などを説明。受験生が

天体衝突探る「衝撃指標」

黒澤上席研究員らが確立



多くの隕石は、母天体で経験した天体衝突の跡を鉱物組織の歪み(衝撃変成組織)として残す。もし隕石に方解石(炭酸カルシウム結晶)が含まれ

るなら、これを調べれば「過去の太陽系でどんな天体衝突が起きたのか」動的な姿を浮かび上がらせることができる。

本学惑星探査研究センター(PERC)の黒澤耕介上席研究員(写真)を中心に千葉工大、岡山理科大、大阪大、海洋研究開発機構、東京大、東京工大、高知大、広島大のチームは、方解石の

2がもたらした小惑星リュウグウの試料にもその粒子が含まれている。方解石の衝撃変成について、は、ごく弱い衝撃(5千気圧未満)か、非常に強い衝撃(20万気圧の場合)だけが知られていた。研究チームは中間の衝撃(1万気圧)を得意と試みた。

チームはイタリア産の良質な大理石(方解石のかたまり)を材料に、効

率よい実験手法を開発。PERCの2段階軽ガス衝撃銃で衝撃を与え、偏光顕微鏡、X線マイクロCT、微小部X線回折法などで詳細に観察した。

その結果、衝撃圧力が3万気圧を超えた場合に、方解石粒子の大部分が波状消光と呼ばれる不均質な光学的特徴を示すことを確認。数値計算でも解析した。

計算では、直径100μmの母天体に直径20μmの天体を秒速5μmで衝突させ、3万気圧を超える衝撃圧力が加わる領域の広さを調べた。波状消光を

安心して入試を迎える仕組みや進学支援について話し、高校教員らは納得の表情で聞き入った。今回、津田沼キャンパスでは見学希望者を募り、中村さんが研究分野に関する「音環境実験室」を案内。昨年からスタートした「高度技術者育成プログラム」の拠点となる演習室を公開し、

型の新規プロジェクトや高校生向け参加型プログラムにも触れた。

続いて、昨年度好評だった学生プレゼンに、今年建築工

IT人材の育成 急務

角田教授がオンライン講演



学会会長を務めるほか、ベンチャー企業数社のアドバイザーも兼任している。

講演ではまず、デジタル人材・IT人材に関する国内外の状況について、「日本は最新の世界

デジタル競争力ランキングで28位。2位の香港、5位のシンガポール、8位の台湾、12位の韓国、15位の中国に比べて、アジアの中でも順位を著実に落としている」と警鐘を鳴らし、日本が低位にあるのは技術的な問題で

示すような粒子が発生する領域は、衝突点から約30μm程度の領域に限られることが分かった。

リュウグウ試料の調査が進み、試料中の方解石が波状消光を示した場合、地球に届いた試料の少なくとも一部は、リュウグウ母天体の30μmより浅いところにあった可能性が高いといえる。

来年には米国の探査機が小惑星ベノヌの試料を持ち帰る予定で、ベノヌ試料にも方解石が含まれている可能性があり、指標による分析が期待できそうだという。

はなく、「組織と人材」のあり方に問題があると認識を示した。

その上で、IT人材の育成は世界的な競争になっており、アップルやアマゾンなどに代表されるDX資本主義というべき

社会経済変革のただ中で、企業自らがIT人材を確保・育成しなくてはならないと強調。国の情報教育を強化する流れやコロナ禍でのリモートワーク化などを好機と捉えるべきだとした。

講演会では角田教授のほか、一般財団法人日本総合研究所会長の寺島美郎氏が「日本が埋没した理由と復活への条件、資本主義の構造変化とデジタル化がもたらす光と影」と題して基調講演、

Sansan(株)のBill ONE Unitプロダクトマーケティングマネージャーの柘植朋美氏が「請求書受領のデジタル化から始める、請求書業務の効率化」と題して講演した。

3年ぶり キャンパスで 楽しみな祭～

第27回

文化の祭典

コロナ禍でオンライン開催が続いた「文化の祭典」(文化会主催)の第27回が5月29日の日曜日、3年ぶり

に津田沼キャンパスで対面で開催された。学内関係者だけで

実行委員長・富樫央光さん(都市環境工学科4年)や文化会会長の藤井日南子さん(情報システム通信工学科4年)が決めたキャッチコピーは「文化の再燃」3年ぶりキャンパスで祭りを楽しみな祭

。現地催に戻った祭典を全力で楽しんで

展示し、SDGs関連展示も好評だった。本学創立80周年に寄せては「Touch of the History of CU」を企画。6号館の会場に80年間のさまざまな写真を展示し、クイズラリーで本学の歴史をたどれるようにした。来場した教員からは「準備を進めてくれた学生の皆さん、ありがとう。



富樫委員長



▲ ミニゲームアドベンチャーに参加
▲ 精密ロボット工学研究会



▲ スラックアウト



▲ 思い出を写真に残そう



▲ 電気研究部



▲ 書道倶楽部

富樫委員長の話引き継ぎもなく不安でしたが、文化会常任委員の協力もあり、無事に祭典を終了できました。学内関係者の開催でしたが新入生のサークル体験や参加団体の交流の場として十分な働きができたと思います。来年は地域の方々も招待できるよう頑張ってもらいたいです。

学内・商店街でごみ拾い

自治会クリーンデー成果



身近な環境で、ごみのポイ捨てなどをなくす大切さを実感した自治会では、学生一人ひとりの美化意識を高め、足元から

清潔で美しいキャンパスとまちづくりを進めよう、と力を入れている。心地よい生活空間をデザイン科学科で追究する

学生委員会委員の大嶋辰夫准教授もごみ拾いに参加し、「キャンパス内に投げ捨てなどのごみは見当たらずになりました。

皆さんの心掛は、人の気持ちまで美しくしているんだらうなとうれしく思います」と話していた。

本来なら大学は、自由に学び交流を通じてコミュニケーション能力を高め、友達を増やすと共に、社会に順応する力をつけていくべきところですが、コロナ禍が続いており、なかなか思うようになりません。それでも母校のコロナ対応は、対面授業を優先したので、

他校の学生よりは恵まれているかもしれません。3月の終わりに蔓延防止の対策が解除されてから、感染者数も徐々に減少し、特に重症者数が大きく減った事もあり、人々の行動が、感染予防を行いつつも徐々に活発になって参りました。

有る部分残り、上手く折り合いをつけていかなければと思います。私事ですが、5月の同窓会総会にて会長を退任いたしました。在任中は皆様に、大変お世話になりました。おかげで曲がりなりに職を全うすることができました。心から御礼申し上げます。この後は新会長岩館和巳さん電子S51卒によりのご支援をお願いします。同窓会前会長 池永 憲明

寮運動会再開

コロナ禍緩和 150人参加

学生寮の大運動会が6月11の日曜日、新習志野キャンパス野球グラウンドで3年ぶりに開催され、青空の下、寮生、教職員ら約150人が体を思いきり動かした。

企画委員長・野中一桜さんプロジェクトマネージャメント学科4年IIや寮長の樋田海都さんII情報通信システム工学科4年IIらが考えた種目は、玉入れ▽障害物競争▽借り

人競走▽長縄▽しっぽとり▽フロア対抗リレー―など。花形の騎馬戦や2人3脚はコロナ対策で中止された。代わりに盛り上がったのは障害物競争。縄跳びやじゃんけん、麻袋ジャンプなど複数の障害物に懸命に取り組み姿に、声援や拍手が送られた。

応援席のテントは多めに設置して密を避け、感染予防に配慮した。寮運動会は、異なる学年が連携し寮内の団結意識と交流を促すもの。寮員が連携し寮内の団結意識と交流を促すもの。寮員が連携し寮内の団結意識と交流を促すもの。

寮長・樋田さんの話 3年ぶりで運営経験者0人が頑張った企画・実施しましたが天気予報に翻弄され、前日の晴天予報は頑張りか天に届いた気分。けが人もなく、盛り上がりよかったです。

そんな彼らが卒業して早5年、久々に会う表情はすっかり社会人になっていた。既婚者もいれば、この研修がきっかけでTOEICの勉強を続け、外資系IT企業に引き抜かれた者もいた。話の中心は「女」や「ゲーム」から「銭」や「ビジネス」に変わり、一丁前に今後の日本や世界を語る姿はとも勇ましかった。そして会話の中で幾度となく聞かせる「あの時は本当にお世話になった。」

「あんな彼らが卒業して早5年、久々に会う表情はすっかり社会人になっていた。これは卒業まで彼らにしていた投資がいよいよ返ってくる時がきたかと胸を躍らせて迎えたお会計。彼らは口を揃えて言った。「ご馳走様です!」あの時と何ら変わらないこのスタイルが私は大好きだ。兎にも角にも、1日も早くこのような研修が復活することを心から願っている。 教学センター津田沼教務担当 小野田 貴之

「虫の音」にはリラックス効果

関教授ら産学連携で検証



建設コンサルタンの日本工務(本社・東京都千代田区)と本学プロジェクトマネージャメント学科の関研一教授II写真、東邦大、国立環境研究所の産学連携チームは「多様な虫の鳴き声に人に対するリラックス効果をもたらす」とする研究成果を6月17日、記者発表した。

公園や緑地の整備に生かされるのが期待される。成果は都市緑化の国際学術誌アーバン・フォレストリー・アンド・アーバン・グリーンニングに掲載された。

昆虫の種類が豊かな千葉県白井市の草原でバッタの仲間4種(エンマコオロギ、カンタン、キンヒバリ、スズムシ)を選定。4種の鳴き声を組み合わせたサンプル15種を用意し、実験室で学生65人にランダムで7通りの組み合わせで聴感上の調和が裏付けられたという。

今回は比較的均質な学生集団を対象としたので、文化や年齢を考慮した分析は今後という。関教授は慶大から21(株)に在籍後、本学で製品開発プロセスマネージャメントや音響振動設計を研究。人脈を生かしての産学連携研究となった。

心理学的測定法セマンティック・ディファレンシャル法で、各音源の印象を回答してもらい、因子分析や音響物理解析を用いて、種や種数によって鳴き声に対する好みの程度に違いがあるかどうかを検証した。

鳴く虫の種類が増えるとうれしいイメージが向上。因子分析すると、4つの因子(穏やかさ、華やかさ、音楽性、深み)が向上しており、特に「華やかさ」と「音楽性」の得点が増えた。4種の音響スペクトル分析でも聴感上の調和が裏付けられたという。

今回の比較均質な学生集団を対象としたので、文化や年齢を考慮した分析は今後という。関教授は慶大から21(株)に在籍後、本学で製品開発プロセスマネージャメントや音響振動設計を研究。人脈を生かしての産学連携研究となった。

建設コンサルタンの日本工務(本社・東京都千代田区)と本学プロジェクトマネージャメント学科の関研一教授II写真、東邦大、国立環境研究所の産学連携チームは「多様な虫の鳴き声に人に対するリラックス効果をもたらす」とする研究成果を6月17日、記者発表した。

公園や緑地の整備に生かされるのが期待される。成果は都市緑化の国際学術誌アーバン・フォレストリー・アンド・アーバン・グリーンニングに掲載された。

昆虫の種類が豊かな千葉県白井市の草原でバッタの仲間4種(エンマコオロギ、カンタン、キンヒバリ、スズムシ)を選定。4種の鳴き声を組み合わせたサンプル15種を用意し、実験室で学生65人にランダムで7通りの組み合わせで聴感上の調和が裏付けられたという。

今回は比較的均質な学生集団を対象としたので、文化や年齢を考慮した分析は今後という。関教授は慶大から21(株)に在籍後、本学で製品開発プロセスマネージャメントや音響振動設計を研究。人脈を生かしての産学連携研究となった。

心理学的測定法セマンティック・ディファレンシャル法で、各音源の印象を回答してもらい、因子分析や音響物理解析を用いて、種や種数によって鳴き声に対する好みの程度に違いがあるかどうかを検証した。

鳴く虫の種類が増えるとうれしいイメージが向上。因子分析すると、4つの因子(穏やかさ、華やかさ、音楽性、深み)が向上しており、特に「華やかさ」と「音楽性」の得点が増えた。4種の音響スペクトル分析でも聴感上の調和が裏付けられたという。

今回の比較均質な学生集団を対象としたので、文化や年齢を考慮した分析は今後という。関教授は慶大から21(株)に在籍後、本学で製品開発プロセスマネージャメントや音響振動設計を研究。人脈を生かしての産学連携研究となった。

今回の比較均質な学生集団を対象としたので、文化や年齢を考慮した分析は今後という。関教授は慶大から21(株)に在籍後、本学で製品開発プロセスマネージャメントや音響振動設計を研究。人脈を生かしての産学連携研究となった。

今回の比較均質な学生集団を対象としたので、文化や年齢を考慮した分析は今後という。関教授は慶大から21(株)に在籍後、本学で製品開発プロセスマネージャメントや音響振動設計を研究。人脈を生かしての産学連携研究となった。

今回の比較均質な学生集団を対象としたので、文化や年齢を考慮した分析は今後という。関教授は慶大から21(株)に在籍後、本学で製品開発プロセスマネージャメントや音響振動設計を研究。人脈を生かしての産学連携研究となった。

大橋 慶子

編集だより



豪雨が何日も続いたかと思ったら、思いもかけず、びたっと夏の日差しになった。

梅雨に気がとられていたら夏バテの心配がやっとならぬとは、まだ6月なのに唐突すぎるでしょ?と、文句も言いたくなる。しかし暑さのピンチはひんやりした食べ物に動かしやすさと心機一転。コンビニに並ぶ夏バテ知らずの冷たい食べ物を目玉買いあさっては子

四季雑感



先日、2015年にグアム語学研修の引率をした時の卒業生達と会う機会があった。慣れない土地で1カ月間寝食を共にし、様々な困難を乗り越えた経験値は、つい数カ月前に出会ったとは思えないほど深い絆となり、その関係は帰国後も続いた。

そんな彼らが卒業して早5年、久々に会う表情はすっかり社会人になっていた。既婚者もいれば、この研修がきっかけでTOEICの勉強を続け、外資系IT企業に引き抜かれた者もいた。話の中心は「女」や「ゲーム」から「銭」や「ビジネス」に変わり、一丁前に今後の日本や世界を語る姿はとも勇ましかった。そして会話の中で幾度となく聞かせる「あの時は本当にお世話になった。」